（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立天神小学校

■　学校の共通目標

授業づくり	重点	ねらいが明確な授業、ノート指導の徹底とＩＣＴ機器の活用。	中間評価		最終評価	
環境づくり		落ち着いた環境整備と学習・生活規律の徹底。				

■　学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組み（10 月）	最終評価（２月）
1	国語				
	算数				

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組み（４月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学　平仮名及び片仮名の読み書きについては、全ての児童が習得している。漢字は、ほぼ習得できているが、文脈に合わせて文章中で漢字を使うことが難しい児童がいる。１年生の時に週２回日記を書いてきたので、思ったことや考えたことを文章で書く経験は比較的多い。	・漢字を文や文章の中で適切に使用することに課題がある。 ・文章を書いて読み返しても、自分自身でどのように推敲すればよいかが分かっていない。表記の間違いに気付くことが難しい。	・漢字ドリルノートを活用して、漢字を使った文章に慣れさせる。授業中や宿題で、漢字を使った短文作りをさせる。 ・ＩＣＴ機器を活用し、分かりやすく文章表現の仕方を提示していくなど、思ったことや考えたことを文や文章で表すための書き方を指導する。		
	算数	学　繰り上がりの加法や繰り下がりの減法は、全ての児童が習得している。 計算の仕方を絵や図、言葉を使って適切にノートに書くことが課題となる児童が多い。 時計の読み方に課題がある児童がいる。	・計算の仕方について、一部の児童は操作や言葉などを用いて表現することに課題がある。 ・時計の読み方のきまりを理解できていない児童がいる。	・算数科における正しいノート記述の技能を身に付けさせる。ノートを画面に投影して見本を常に示すようにする。 ・日常の中で、時計を読む機会を繰り返し与え、継続的に習熟を図る。		
3	国語	調　前年度の学力定着度調査の結果、「文章を書く」、「話す聞く」では目標スコアを下回っている。 学　自分の考えを文章にすることはできるが、表記の誤りが多い。「話す」では、自分の思いはあるが、その内容を相手に伝えることが難しい。	・作文などでは、文脈にあった漢字を使うことに課題が見られる。また、誤った表記に気付くことができない。 ・「話すこと」では、相手に自分の気持ちを伝えることが難しい児童が多い。「聞くこと」では、姿勢や相手を向いて聞くなどの基礎・基本に少し課題がある。	・漢字ノートを使い、漢字を使った文章に慣れさせ、文脈に合った漢字を使えるようにする。 ・話す・聞く活動を授業に多く取り入れ、「聞き方名人」「話し方名人」のポイントを常に意識させながら、発表活動を活発化させる。		
	算数	調　前年度の学力定着度調査の結果、「時間と長さ」が目標スコアを下回っている。 学　工夫して計算をすることや、単位の換算などの定着に課題がある児童が多い。また、自分の考えをノートに表現をすることが苦手な児童もいる。	・単位換算に課題が見られる。 ・課題に対する考えをノートに表現することが苦手な児童が多い。	・朝学習や家庭学習などを使い、継続的に復習をし、単位に関する理解を深めていく。 ・問題を解く過程を発表し合い、互いの表現の仕方を学び合う場を設定する。ＩＣＴ機器や具体物などを用いて多角的に考えられるように指導する。		
4	国語	調　前年度の学力定着度調査の結果、全体的に目標スコアを上回っている。 学　相手の気持ちを考える児童が増えてきたが、それを言葉にしたり、文章にしたりすることが苦手な児童が多い。	・書いた文章を自分で読み返す習慣が身に付いていない。 ・作文で比喩や形容詞、副詞などを取り入れることがなく、文脈に合致した適切な言葉を使うことに課題がある児童が多い。	・文章を書いた後の読み返しの徹底、声掛けを継続的に行う。 ・作文の際の誤った表記を指摘して、繰り返し丁寧に指導する。		
	算数	調　前年度の学力定着度調査の結果、全体的に目標スコアを上回っている。 学　算数への関心や意欲が低い児童が多く、基礎的な知識の活用に課題がある。	・計算の誤りを見付け、それを説明するなど、数学的な考え方ができない児童が多い。 ・大きな数の位取り記数法の理解に課題がある。	・解答に至る過程を大切にする態度が身に付くよう、友達との関わりを取り入れた授業を行うようにする。 ・一つの問題にも様々な見方があることに気付かせ、ＩＣＴ機器も活用しながら問題解決的な授業を継続して行っていく。		

５	国語	調　前年度の学力定着度調査の結果、標準スコアが５ポイント上昇した。 学　作文は４年次に多く取り組んできたが、自由な書き方や表現方法が多く、文章表現の基礎・基本に課題がある。	・作文の書き方が自由で原稿用紙の使い方や起承転結等の構成も身に付いていない。 ・友達と話し合ったり、教え合ったりする話し合い活動が経験としてかなり少ない。	・作文や日記、詩など表現方法の基礎を再度理解させ、たくさんの表現活動を経験させるようにする。 ・話す、聞くから発表活動に至るまで、児童同士が話し合う言語活動を積極的に取り入れる。		
	算数	調　学力定着度調査の結果、数量関係、図形、数と計算、活用、基礎において、目標値を上回る結果となったが、前年度より標準スコアが０．２下がった。D層の底上げにつなげられなかった。	・問題の解答や正答ばかりが優先され、そこに至る過程が重要視されなかったり、友達のよい意見を聞いたり受け入れたりする学び合いに課題がある。	・問題を解く過程を大切にし、友達の考えやよさを認め合う場面を増やしていくようにする。また、図や数直線、具体物操作等、ＩＣＴ機器も活用して児童が発表し合い、考えを深める授業へ改善をしていく。		
６	国語	調　学力定着度調査の結果、ほとんどの観点で目標値を上回っているものの「漢字を書く」と「作文」は下回っている。 学　自分の考えたことを簡単に書くことはできるが、根拠を明確にして書いたり考えを詳しく書いたりすることは苦手である。	･漢字を文や文章の中で適切に使用することに課題がある。 ・自分の考えを書くことに苦手意識があり、自分の考えを文章で表現することが難しい児童が多い。	・漢字ドリルノートを活用し、毎日漢字を書く学習に取り組ませる。また、漢字小テストを活用し、新出漢字を確実に身に付けさせる。 ･自分の考えを書く活動を授業の中に必ず入れる。また、考えの根拠を明確にすることを意識させ、文章中の言葉に着目するよう指導する。		
	算数	調　学力定着度調査の結果、ほとんどの観点で目標値を上回っているものの「体積」と「合同」は下回っている。 学　三角定規やコンパスを正確に使って線をひくことが難しい児童がいる。また、図形に関する既習事項の定着していない児童が多い。	･作図をする際、三角定規やコンパスを正確に扱えない児童がいる。 ・図形の名称、面積や体積の公式など、既習事項の定着に課題がある児童が多い。	・道具を正確に扱えるよう、机上整理などの学習環境を整え、ＩＣＴ機器を活用し、道具の扱い方を具体的に示していく。 ・授業内容と既習事項との関連を教師が意識し、授業の中で既習事項の復習を取り入れながら学習を進める。		
音楽		学　すすんで音楽の学習活動に取り組む児童が多い。 ・歌唱領域では歌声を響かせるための技能に課題がある児童がいる。 ・器楽領域では学年が上がると個人差が大きくなる傾向にある。 ・鑑賞領域では自分の感じたことを発言することができる。しかし、音楽の諸要素と関連付けて発言したり記入したりすることに課題がある。	・頭声的な発声で歌うことができる児童が多いが、のどに力が入ってしまう児童がいる。 ・楽譜の難易度が上がると苦手意識を感じてしまう児童がいる。 ・鑑賞して感じたことを自由に述べることはできるが、文章で表現したり、音楽の諸要素と関連付けて表現したりすることが難しい児童がいる。	・授業の導入として、体をほぐす体操や発声練習を取り入れ、声を響かせるようにする。 ・階名唱を十分に行い、楽譜を数小節ごとに区切るなどスモールステップで行う。ICT を活用し、楽譜を拡大するなど視覚的に分かりやすくする。 ・音楽の諸要素を音楽室内に掲示し、児童の発言を教師が諸要素と関連付けて整理していく。		
図工		学造形活動に興味をもち、楽しく活動する児童が多い。 ・道具や材料の扱い方についての経験や技能に差がある。 ･材料や道具に触れ、ものをつくることを楽しんでいるが、つくりながら発想を広げることが難しい。 ･鑑賞する活動では作品を見ること、感じたことを話すことができるが、表現の意図や、特徴について考えることはできていない。	・自分の表したいことが思ったように表せず、苦手意識をもってしまう児童がいる。 ・決まった手順で作っていくことに満足し、自発的に工夫や改善に取り組むことが難しい児童がいる。 ・作品を見て感じたことを表現することはできるが、その理由を造形的特徴から説明することが難しい。	・基本的な道具の扱いを繰り返し行う、小作品に数多く取り組むなど、道具や材料を扱う経験を積ませる。 ・扱う材料や用具に幅をもたせ、自分の表現に合わせて選んだり、試したりする時間を確保する。 ・鑑賞の活動では、自分や友だちの作品や、身近な美術作品について、色、形、表現方法などの造形的特徴から説明する活動を取り入れる。		
特支		学　集中して人の話を聞くことや、自分から行動に移す力が育っていない。また、グループでの話合い活動も苦手にしている。 　学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い一方、指先の細かい操作や、情報を処理する力に課題がある。	・教師や友達が話している時に、思いついたことをすぐに話してしまう傾向がある。 ・他の人の意見を聞いたり、自分の主張と調整したりすることができない。 ・指先の細かい操作や力のコントロールが難しい。 ・対象物に合わせて目を動かすことが苦手な児童がいる。	・話の聞き方、発言のルール（挙手の仕方）、丁寧な話し方などを指導する。 ・１対１で相手の話を聞く(ペアトーク)活動の中で、聞く態度や相づちの打ち方の指導をする。 ･個別の学習の中で発達段階に応じた教材を用い、楽しみながら手や指を使うようにさせる。 ･継続的にビジョントレーニングを行い、目の動きをスムーズにさせる。		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　※分量は２ページ以上となってもよい。